

(別紙 6)

沖縄県における認定鳥獣捕獲等事業者等の育成に係る
評価報告

1 認定鳥獣捕獲等事業者等の現状や課題等

沖縄県内には認定鳥獣捕獲等事業者がいないほか、地元両村では有害鳥獣捕獲を実施しているが、実際の捕獲従事者は少数であり、捕獲の担い手が不足している状況である。(なお、事業開始後、沖縄県内初となる認定鳥獣捕獲等事業者の認定を行った。)

現在、座間味島におけるイノシシの生息個体数は、継続的な捕獲作業によって減少傾向にあるが、作業日数が限られていることなどから、警戒心が高く、夜間しか出没しないなど捕獲の難度が高い個体が残っていることが課題となっている。これらのことから、現在用いている捕獲手法のみで、当事業の最終目標であるイノシシの根絶を達成することは非常に困難であると考えられ、より効果的な捕獲手法である夜間銃猟等を用いた捕獲を導入する必要がある。

なお、イノシシ対策の専門家の意見でも、根絶を達成するためには、夜間銃猟の導入が必須とされている。

2 1の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

実施時期	令和7年4月～令和8年3月
場所	座間味村、射撃場
目的	イノシシの根絶に向け、捕獲の強化及び捕獲の担い手の確保等を目的とする。
対象者・講師 (人数も記載)	対象者：認定を目指す事業者等(10名程度を想定) 座間味村の住民(20名程度を想定) 講師：銃によるイノシシの捕獲経験が豊富な本事業の従事者
内容	認定を目指す事業者や地元両村の狩猟免許所持者について、イノシシの根絶に向け、知識・技術向上を図る。また、座間味村において、イノシシ根絶に係る理解及び捕獲への意識向上、協力体制の強化、捕獲の担い手の確保を図る。
方法	認定を目指す事業者を対象に、専門家の協力のもと射撃訓練を実施した。また、座間味村において、本事業に関する説明会を実施した。
評価方法	射撃訓練：実施回数、参加人数、模擬試験時の命中率 説明会：参加人数
事業費	2,000千円
備考	

注1：項目に沿って、実施した研修会等の具体的内容を記入すること。なお、「目的」には育成したい人材像も記入し、「評価方法」には目的や育成したい人材像に対する事業内容の適切性の検証方法や事業効果の測定方法等を記入すること。

注2：事業終了後の評価結果では、各項目について、実施した結果を記入すること。

3 2の取組に対する評価と今後の課題等（事業終了後の評価結果時のみ記入）

①射撃訓練の実施

本事業の捕獲従事者を対象に、イノシシの捕獲技術を向上させ、かつ夜間銃猟を行うために満たす必要がある射撃技能を身につけることを目的とした射撃訓練を実施した。訓練は射撃訓練場において行った。

実施回数：4回 参加人数（延べ）：6人

模擬試験時の命中率：従事者A 75%、従事者B 80%

従事者Aについては8回の模擬試験中3回、従事者Bについては6回の模擬試験中2回で全弾命中した。夜間銃猟の導入のためには、従事者の技術の向上が必要であるとする。

②事業説明会の開催

座間味村の住民を対象に、イノシシ根絶に係る理解及び捕獲への意識向上、協力体制の強化、捕獲の担い手の確保を図るため、本事業に関する説明会を開催した。

説明会では、本事業の内容、これまでの成果、今後の事業方針等について説明を行い、本事業への理解と協力を求めた。

開催回数：1回 参加人数：8人

説明後には質問や提案もあり、本事業に対する理解の向上に寄与したと思料される。一方、想定（20名程度）よりも参加人数が少なかったのは、沖縄本島と座間味島間の船の欠航により、当初案内していた説明会の開催が延期になったことが一因と考える。

今後も、効果的に捕獲が実施できるよう、地元との連携体制の構築を図っていく。

注：1の課題及び2の各記載内容等も踏まえ、取組が適切に実施されたか、目的に対して効果があったか等の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった取組の改善点や今後の認定事業者の育成の課題等についても記入すること。

4 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。